

21:22 私は、この都の中に神殿を見なかった。全能の神である主と子羊が、都の神殿だからである。

21:23 都は、これを照らす太陽も月も必要としない。神の栄光が都を照らし、子羊が都の明かりだからである。

21:24 諸国の民は都の光によって歩み、地の王たちは自分たちの栄光を都に携えて来る。

21:25 都の門は一日中、決して閉じられない。そこには夜がないからである。

21:26 こうして人々は、諸国の民の栄光と誉れを都に携えて来ることになる。

21:27 しかし、すべての汚れたもの、また忌まわしいことや偽りを行う者は、決して都に入れない。入ることができるのは、子羊のいのちの書に記されている者たちだけである。

「太陽も月も必要としない」とは、神様の栄光と恵がそのままに与えられるからです。太陽や月は、また自然の恵や状況の幸運も、私たちにはなくてはならないように思えますが、実は主こそがなくてはならない方であり、そしてそれで十分なお方なのです。

今も、主の恵で生きる私たちは、天国の前味を味わうことができます。恵を受けるごとに天国の希望を思いましょう。また、ものや現象にか状況によって恵みを受けて喜ぶだけでなく、主ご自身が解決であり幸いなのだと、分かる者となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

